検　査　報　告　書

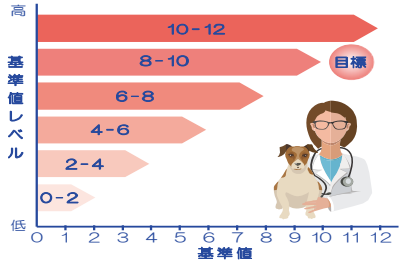
受付No	12345678	受付	2017/9/6
事業所			
カルテNo	11001234		
お客様	田中 ワカメ　ちゃん		
年齢・性別	6才　メス		2011/4/1生
犬種			

採取	2017/9/4
検査	2017/9/6

維持・予防が大切	正常	特に問題がありません。現状維持をしてください
	注意	少し調子が落ちていますが、元気な状態です。
ケアが必要	要注意	要ケアになる前に、早期改善をしてください。（未病レベル）
	要ケア	なんらかの手当てをお勧めします。（未病レベル又は有病レベル）

基準値　6 - 8

基準値とは？
当研究所の被毛検査において、検査時点における犬の健康状態を基準値という数値で評定します。各検査項目の数値が基準値の正常範囲内であれば基準値の大小にかかわらず健康状態は良好と言えます。



基準値レベルアップすることで、自然治癒力、抵抗力、免疫力、回復力などが総合的に上昇します。
基準値レベル 8-10位を目安にレベルアップやレベルの維持に心がけましょう。

被　毛　検　査

DOG FINE

HEALTH CHECKUP
一般社団法人医療サプリメント研究所

＜基本項目＞

	Medical	検査項目	基準値	測定値	前回	前々回	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				2017/9/6	2017/5/9	2017/3/28																
			基準値	6-8	4-6	2-4																
1	IMMUNOPOTENCY	免疫機能	6-8	9	5	3													★			
2	AUTONOMIC DIVISION	自律神経	6-8	9	5	4													★			
3	CARDIAC	心臓	6-8	8	4	2												★				
4	HEPAR	肝臓	6-8	6	4	1										★						
5	RENAL	腎臓	6-8	7	3	2											★					
6	PANCREAS	すい臓	6-8	7	4	2											★					
7	DIGESTIVE ORGANS	消化器系	6-8	6	3	1										★						
8	UROPOIETIC ORGANS	泌尿器系	6-8	9	2	0													★			
9	BONY TISSUE	骨組織	6-8	8	4	1												★				
10	RESPIRATORY	呼吸器系	6-8	6	3	0										★						
11	INTESTINAL	腸内環境	6-8	5	2	0									★							

＜健康項目＞

	Medical	検査項目	基準値	測定値	前回	前々回	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				2017/9/7	2017/5/9	2017/3/28																
12	ALLERGY	アレルギー	6-8	9	3	1													★			
13	STRESS	ストレス	6-8	4	2	0								★								
14	HYPOVITAMINOSIS	ビタミン不足	6-8	5	2	1									★							
15	DIABETES	糖尿病	6-8	8	6	4												★				
16	INFECTION	感染症	6-8	7	5	2											★					
17	OSTEOPOROSIS	骨粗しょう症	6-8	7	5	3											★					
18	DERMOPATHY	皮膚病	6-8	7	3	1											★					
19	PERIODONTAL	歯周病	6-8	7	4	2											★					
20	CATARACT	白内障	6-8	9	3	1													★			
21	EXTERNAL OTITIS	外耳炎	6-8	8	4	2												★				
22	CANCER	悪性新生物（ガン）	6-8	6	2	0										★						

＜追加項目＞

	Medical	検査項目	基準値	測定値	前回	前々回	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1																						
2																						
3																						
4																						

補足：基準値を下回ると機能低下、上回ると昨日亢進となり、バランスの乱れが健康維持に負担を掛けることになります。各検査項目の数値がバランスよく上がることで基準値も高くなり、より耐性力のある健康な体になっていきます。逆に病気やストレスなどで検査項目のバランスが崩れると基準値の評価も下がります　。
基準値が低い評価で維持する犬は病気になりやすい傾向となります　。